

【論文】

看護学先行研究からみた臨地実習指導者の現状と課題

二十軒 温美

I. はじめに

看護基礎教育は、専門化し複雑化する高度な医療に対応できる能力・観察力・判断力を学ぶとともに、地域・在宅における看護サービスの領域にも対応できる、能力の基礎づくりが求められる（藤岡ら、2002）。看護基礎教育における臨地実習（以下、実習）の目的は、健康問題を持つ人や危機的状況にある人の尊厳や自由・苦痛の意味を考え、看護とは何かを問うプロセスを学び、看護を展開し看護観を形成することである（文部科学省、2002）。実習を効果的に行うために、厚生労働省（2011）は既習の学習や看護技術を組み合わせ、より良い看護を提供できる指導方法の提案を示している。また、海外の実習に関する先行研究からは、良い学びになる実習環境として、臨地実習指導者（以下、実習指導者）がロールモデルになる効果や、実習場の雰囲気の大切さ（Jonsén et al, 2013）、教員と実習指導者の意思決定や問題解決の手法の共有（Attack et al, 2000）、教員と実習指導者の協働の重要性（McSharry et al, 2010）をあげている。

実習指導者は、実習の中で学生の学びを充実させるという大きな役割を担っている。実習指導者の具体的な役割内容は、学校側との打ち合わせや、実習環境の調整・受け持ち患者の看護についての直接指導・学生との面談やカンファレンス・記録の点検・実習評価などである（藤岡ら、2004）。実習指導者には多岐にわたり業務があるが、これらの役割は職種として固定された役割ではなく、組織から要請されたキャリア形成上の一時的な役割である。看護職の定数配置については実習指導者が考慮されておらず、配置規定についての明記も少ないため、実習指導者の多忙を増幅させる状況となっている。現行において実習指導者が2人以上配置されていることが望ましいとされているが（厚生労働省医政局看護課、2013）、看護師不足からくる多忙や7対1看護体制から、実習指導者が病棟業務と兼務していることが多く、実習指導のみに専念することは難しい。夜勤明けや休みのため実習指導に関われない場面もある。実習指導者を専任配置することの絶対義務がなく、同じ病院のなかでも病棟それぞれの管理者の考え方によって、実習指導体制が異なる現状である。

また実習の現場となる病院では患者の在院日数の短期化・患者の安全確保・患者の権利の尊重など社会状況の変化から、実習の範囲や機会が限定され、実習が十分に展開されにくい状況が起きている。この状況の中、指導を行うことに多くの問題・課題が実習指導者にはあるとともに、役割を行うことによる良い経験や学び・自己の成長を実感できることもあるのではないかと推察

する。実習指導者が役割を遂行する中で、実際にどのような問題・困難・成長・達成感・ジレンマ等があるのか明らかにし先行文献を概観することで、今後の実習指導体制の更なる充実や指導者育成に役立つと考える。本研究は、実習指導者に関する研究がこれまで何に注目し行われてきたのか文献検討から明らかにし、実習指導者が役割を遂行する中で、どのような現状・課題があるのか先行研究から把握する。

Ⅱ. 目 的

実習指導者に関する既存の先行研究から、研究が何に注目され行われているのか明らかにし検討する。

Ⅲ. 方 法

1. 用語の定義

臨地実習指導者（実習指導者）：病院または病棟管理者から実習指導者の任命を受け役割付与されている看護師のこと。

2. 対象文献の選定方法

研究対象は、まず医学中央雑誌（以下、医中誌）Web版を用い、2001年から2013年に投稿された国内の文献とした。「臨床実習」「看護学教員」「意識調査」「質問紙法」「指導者」「専門職の役割」「看護師」「教員－学生関係」を検索式にかけ原著論文、会議録、解説も含め抽出した（2013/10/16検索）。さらにMEDLINEとCINAHLのデータベースを用いて「nurs*」「student」「clinical placement」「qualitative study」のキーワードを使用し、2001年から2013年に投稿された英語論文のものを抽出した（2013/09/10検索）。2つのデータベースから抽出した論文を精読し、実習指導者の現状に焦点を当て、研究目的と結果に信頼性・妥当性のある論文を選定した。

3. 分析方法

対象文献の内容を精読し、「研究目的」の項目を要約し、タイトル・筆頭著者・発行年・研究目的を表にまとめた（表1）。文献各々のタイトル・研究目的・内容からキーワードを抽出し、相違点・共通点で比較を行い分類した後にテーマをつけた。テーマごとにどのような研究結果が明らかになっているのかを示し、実習指導者に焦点をあてている文献の結果から考察した。

表 1 分析対象論文の概要

タイトル	筆頭著者名	発行年	研究目的	表題・目的・結果からのキーワード
Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析 - 第 1 報 -	中西啓子	2002	ECTB が実習指導の指針になるのかを調査する。	指導の視点
実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因	細田泰子	2004	実習指導者の教育的アプローチに影響を及ぼす背景要因を明らかにする。	実習指導者の困難
看護学臨床実習における教材化の臨床実習指導者と教員の比較	島田悦子	2005	臨床実習指導者および教員の教材化の視点とその影響因子を明らかにする。	指導の視点
臨床実習指導者と教員間の連携に向けた実習説明会	原江里子	2006	実習説明会の後に指導者が病棟看護師に説明会での内容をどのように伝えているか、また臨床実習指導場面における困難、指導者が知りたいと考えている内容は何かを明らかにする。	実習指導者の困難
臨床実習指導者と看護教員の実習指導の実態	渡邊正人	2006	臨床実習において実習指導者と看護教員がどのようなことを重視して指導しているかを明らかにする。	指導の視点
基礎看護学実習における教員と臨床指導者の役割分担のあり方 - お互いに期待する役割の分析 -	野崎真奈美	2007	基礎看護学実習における教員と臨床指導者の役割分担および連携のあり方について明らかにする。	実習指導者の役割 連携
看護学実習における実習指導者と教員の協働に影響する要因	椎葉美千代	2010	看護師養成所での看護学実習を基に、実習指導者と教員の協働に影響する要因を明らかにする。	協働
臨床実習指導者の実習指導上の困難とサポートのあり方の検討 - 臨床実習指導者講習会での学びとの関わり -	志田久美子	2010	実習指導者が実習指導者講習会でどのようなことを学びその後どのように学生指導を行いその指導の課程でどのような困難を抱えているかを明らかにする。	指導の視点 実習指導者の役割
実習指導者が指導者としての役割を遂行していく課程とその影響要因	志田久美子	2010	実習指導者講習会を終了した実習指導者は、講習会でどのような経験をし、それをどのように役立てて指導者としての役割を遂行しているのか、またその影響要因を明らかにする。	実習指導者の役割
実習指導者専任化体制に関する実習指導者及びスタッフの意識 - 基礎看護学実習 II における取り組み -	三木恵里香	2010	基礎看護学実習 II における実習指導者専任化体制への取り組みに関する実習指導者及びスタッフの意識を明らかにする。	実習指導者の困難
看護教員が期待する臨床実習指導者の役割 - フォーカスグループインタビューに基づく検討 -	山田聡子	2010	看護教員が期待する実習指導者としての役割項目の収集・整理を行う。	実習指導者の役割
学生の看護実践能力を育成するための看護基礎教育における課題 - 臨床実習指導者からみた臨床実習における学生の学習上の困難点から -	滝島紀子	2010	学生の看護実践能力を育成するための看護基礎教育における課題を明らかにする。	実習指導者の困難
臨床実習指導者の看護教員との連携に関する意識調査	詰坂悦子	2011	実習指導者が看護教員と連携をとっているタイミング・看護教員と連携をとっている内容の実態を把握する。	連携
看護系大学生の臨床実習に初めて関わった実習指導者のとまどい	原田恵子	2012	臨床実習に初めて関わった実習指導者のとまどいを明らかにする。	実習指導者の困難 連携
実習指導者に対する病棟看護師の問題意識と役割認識	安永奈穂子	2012	指導に関わるものが学生に対しどのような意識や態度をもって関わっているのか、臨床実習指導の役割を持つ者と日々の実習指導の者で問題意識の検討をする。	実習指導者の困難
実習指導者の実習指導に前向きに取り組むための課題 - 実習指導の原動力となる思いを通して	井上留美	2012	実習指導者が抱えている実習指導上、大事にしている事、やりがいや課題意識を明らかにする。	やりがい
学生にとって学びの多い臨床実習を可能にする教員と実習指導者の連携のあり方 - 実習前・中・後における連携を図るさいのポイントに焦点をあてて	滝沢紀子	2012	教員・実習指導者それぞれが整える実習指導体制にはどのようなものがあるのか明らかにする。	実習指導者の困難 協働
臨床看護学実習に対する病棟スタッフの意識調査	市川睦	2012	実習指導者として学生にたいして一貫した指導をしていくため病棟スタッフに対してどのように働きかけることが必要かを検討する。	指導体制
大学病院実習モデル病棟での慢性疾患看護実習における教員と病棟実習指導者との協働的取り組み	田所良之	2012	大学側・臨床側双方にとって互恵的な実習となることを目指して協働的取り組みの報告。	協働
臨床実習指導における j 実習指導者と教員の協働のための要件 - 実習指導者の教員に対する要望から -	滝沢紀子	2013	臨床実習における実習指導者と教員の協働のあり方を考える手がかりを得て、実習指導者と教員の協働のための要件を明らかにする。	協働
臨床実習における看護師の役割とその実態	治田裕子	2013	臨床実習における看護師の役割を明らかにする。	実習指導者の困難 実習指導者の役割
学生の学習する権利に影響する要因と権利を保障するための実習指導 - 教員と実習指導者のグループディスカッションから -	武用百子	2013	大学教員と臨床実習指導者によるディスカッションの内容から学生の学習する権利に影響する要因を検討する。	指導の視点

IV. 結果・考察

1. 検索結果

医中誌 Web 版の検索により 331 件の論文を抽出し、タイトル・アブストラクトから 59 文献に絞った。MEDLINE では 92 文献、CINAHL では 112 文献が検索され、タイトル、アブストラクトスクリーニングを行ったが実習指導者についての論文がなく、実習の在り方について述べられた論文の中に、実習指導者の役割が記述されている 3 文献であった。以上より医中誌 Web 版 59 文献から信頼性・妥当性を考慮し、22 文献を対象論文として抽出した (図 1)。

研究発表年を概観すると、2010 年・2012 年に発表された論文数が多い。一つの要因として「厚生労働省の看護基礎教員の充実に関する検討会の報告書」(2007) が打ち出され、臨地実習に関して教員・実習指導者の現状やあり方の報告が行われたことが関係するのではないかと考えられる。

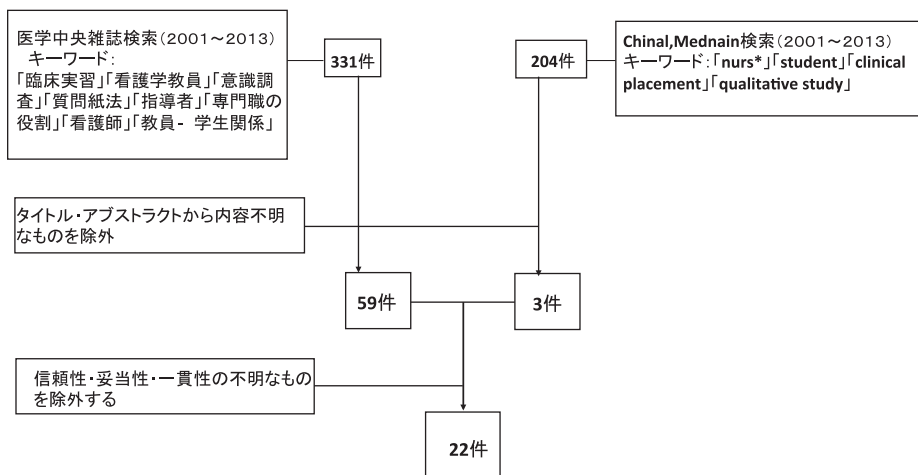


図 1 文献検索過程

2. 分析結果

研究目的の内容を要約し、タイトルやキーワードから先行研究にテーマをつけた結果、実習指導者に焦点を当てた先行研究は「指導の視点」「実習指導者の役割」「実習指導者の困難 (とまどい)」「協働」「連携」「やりがい」に分類された。

3. 先行研究の結果と考察

1) 「指導の視点」について

実習指導者は、学生が受け持ち患者への理解が進み、根拠に基づいた看護過程が展開できるように指導を行う。また学生が受け持ち患者との関係性をつくることができることや実習態度を正

しく身につけることに関しても指導の視点としていた（島田、2005）。一方で学生の実習態度は実習指導者の指導の視点として重要視せず、それよりも実習環境の調整を重点としている研究結果もあった（渡部、2006）。実習指導者が指導の視点をどこにおいて役割に取り組むかは、それぞれの病院と実習を行う学校側との考え方や関係性もあり、病院の組織風土も関係すると考えられる。

また近年の学生の特徴として少子化・ゆとり教育・生活体験の乏しさからくる主体性の低下や読み書き・理解力の低下などの問題がある。学生にとって実習環境は普通の学習の場ではなく、決められた期間内で実習目標を達成していくことは難しく、実習指導者や教員は指導力を求められる。指導の視点を教員と共に協働・連携していくことが求められると考える。指導の視点は、実習指導者が自己の役割をどう捉えているかということも影響すると考える。実習指導者講習会に参加することで指導の視点や役割を理解することができたという報告があり（志田ら、2010）、教育観の方向性を同じにし、教育効果をあげるためにも、実習指導者に勉強会や講習会受講の機会が必要であると考えられる。

2) 「実習指導者の役割」について

実習指導者の役割は学校側との打ち合わせ・実習環境の調整・学生との面談・カンファレンス参加・記録の点検・実習評価など、実習目標が達成できるように実習指導がスムーズに行えるように役割を行う（藤岡ら、2006）。病院によっては実習指導者の役割と内容が整理されマニュアル化している病院も増え、実習指導者研修を院内で行っている施設もある。

先行研究では実習指導者の役割は教育的関わりであり、具体的には協力的なかかわり・アドバイスの提供・ケアへの参加・ロールモデル・全体像把握としており、教員とは違う役割のあり方を述べている（野崎ら、2007）。実習指導者講習会に参加することで指導のあり方や役割に関して理解出来る結果も明らかにされていることから（志田ら、2010）、実習指導者研修会や実習指導者講習会を継続する必要があると考えられる。学校側とのコミュニケーションを積極的に図ることで、実習指導者が役割を効果的に行うことができる。役割を遂行するためには、実習指導体制が整い学生を受け入れる組織風土もなければならぬと考える。

また、教員側と実習指導者側でお互いの役割の認識にもずれが生じることがあると考えられる。山田ら（2010）は看護教員が期待する実習指導者の役割を明らかにしている。期待する内容は実習指導準備・実習環境の整備・学生の看護実践への支援・学生の学習意欲への支援・病棟スタッフ、教員との連携を述べている。お互いの役割にずれが生じないためにも、関係性を築きコミュニケーションを図る必要があると考える。

3) 「実習指導者の困難（とまどい）」について

実習指導者の指導上の困難として、指導者が自身の力量を過小評価していることからくる困難感や、学生・教員・スタッフとの人間関係についての困難が述べられている（細田ら、2004）。学生の看護基礎教育での学習修得レベルの低さが、臨地実習での指導の困難さを招いているという報告もある（滝島、2012）。実習指導者が役割を行うことにとまどいや困難感を感じる内容は、

学生の気質も含めた学習能力に対して、どのように指導していけばよいのかということと、さまざまな調整に関わる人間関係の難しさがあると考えられる。また実習指導者は業務との兼務をしながら学生の指導を行うことが多く、学生に関わる時間が少ないことも指導上の困難である（安永、2012）。実習指導者だけでは学生の対応が出来ない場合、病棟のスタッフが学生指導を行うが、病棟スタッフは、学生の実習状況の理解不足や指導方法に困惑するという報告もある（治田、2013）。実習指導者を専任化体制にした試みからの報告があり、スタッフの負担が増えたことのとまどいも述べられている（三木ら、2012）。

このように実習指導者の困難の要因の1つには、実習指導体制があげられる。実習指導体制とは、勤務状況・看護師人員配置等の体制の内容から、実習環境と捉えられる患者の状況、病棟のケア物品の充実、カンファレンスルームの確保等の内容まで幅広いものを示す。文部科学省（2002）は、実習指導体制の問題点について高度な治療処置を要する患者が集中し、身体侵襲を伴うための教材化が難しいことをあげている。在院日数が短くなり、変化の多い急性期の患者を受け持つことが多いことから、実習指導体制をさらに整え実習指導の困難への対処を行うことが今後の課題であると考えられる。

4) 「協働」について

実習指導者と教員の協働に与える大きな要因は、1か所の病棟において異なる教育機関・教育課程の実習グループが年間に複数回、実習を行うことや、両者（病院側と学校側）が会議を適宜持てない状況・カンファレンスに参加・教員の指導体制であるとしている（椎葉ら、2010）。そして協働には両者の関係性・共通理解・情報の共有化・役割の明確化・役割遂行が必要であると述べられている（滝沢、2012）。実習指導者は教員・スタッフと協働しなければ実習目標の到達や学生の実習環境を向上していくことはできないため、それぞれが同じ認識に立ち協力していく必要性が明らかになっている。教員の交代・実習指導者の移動などにより、実習施設・病棟と学校側の関係性を深めることに困難があると考えられる。協働していくためには、相互理解・関係性の構築が課題であると考えられる。田所ら（2012）は、協働していくために全ての病棟に教育担当副師長を配置し、相互理解が図れるように窓口になることや、学生の学びの到達度にも関心を寄せ調整を行うことを実践している病棟の報告を行い、固定した実習担当者を配置することで協働への効果が得られることを明らかにしている。

5) 「連携」について

実習指導者と教員との連携について、調整を綿密に行いお互いが歩み寄る姿勢が必要である（野崎、2007）。最も連携している内容項目は、「学生の個人状況」についてであるという結果もある（詰坂、2011）。看護師経験が長い者や実習指導者講習会を受講した者は、連携の役割がより行っていることも述べられている（原田ら、2012）。先に述べた協働と連携については、役割を行っていくためにお互いの理解と関係性を良くすることや連絡・報告を密に取ることがあげられている。

6) 「やりがい」について

実習指導者のやりがいや喜びに感じている内容は、「学生の成長を目の当たりにすること」「指導が学生に届いていると実感すること」「患者に良い変化が生じること」などが明らかになっている。指導を行い良い結果が見えた時に、実習指導者は達成感がわき、役割にやりがいを感じていることが述べられている（井上ら、2012）。実習指導者を取り巻く困難はあるが、やりがいを感じなければ困難なことを解決していく原動力にはならないと考える。

V. 結 論

実習指導者に関する先行研究（2001～2013）の内容は、指導の視点・実習指導者の役割・実習指導者の困難（とまどい）・協働・連携・やりがいに関してのものであった。実習指導者は指導者としての役割や指導の視点を研修会・講習会等に参加することで構築していた。実習指導者には、実習指導体制からくる指導の困難や自己の指導者としての力量を自己評価する中でのとまどいがある中で、役割を遂行している実習指導者が多い報告もあった。その中でやりがいを見出している研究結果もあり、今後マンパワーの問題や実習のあり方の検討も必要である。実習指導者の経験が看護師としてのキャリアアップとなり、看護基礎教育の実習指導を質的に向上できるように、施設側と学校側で実習の目標・到達度等を共有し、お互いの教育観をすりあわせる必要があると考えられる。

研究の限界

本研究は、医学中央雑誌のデータベースを用いて得た情報を利用しており、データベースの特徴や範囲に限界があると考えられる。

参考文献

- Edel McSharry, Edel McSharry, Helen McGloin 1, Anne Marie Frizzell, Lisa Winters-O'Donnell. The role of the nurse lecturer in clinical practice in the Republic of Ireland. *Nursing Education*. 2010, vol.10, p.189-195.
- Elisabeth Jonsén, Hanna-Leena Melender, Yvonne Hilli. Finnish and Swedish nursing students' experiences of their first clinical practice placement – A qualitative study. *Nurse Education Today*. 2013, vol.33, p.297-302.
- 藤岡完治、堀喜久子（2002）. 看護教育の方法. 第1版、東京、医学書院、184 p、看護教育講座 3.
- 藤岡完治、屋宜譜美子（2004）. 看護教員と実習指導者. 第1版. 東京、医学書院、290 p、看護教育講座 6
- 原田恵子、持田容子、片山弥生、甲斐みどり（2012）. 看護系大学生の臨地実習に初めて関わった実習指導者のとまどい. 第42回日本看護学会論文集 看護教育、72-75.
- 細田泰子、山口明子（2004）. 実習指導者の看護学実習における指導上の困難とその関連要因. 日本看護研究学会雑誌. 27(2)、67-75.
- 井上留美、三重野英子、末弘理恵、甲斐博美（2012）. 実習指導者の実習指導に前向きに取り組むための課題－実習指導の原動力となる思いを通して. 第41回日本看護学会論文集 看護教育、49-52.
- 看護教育の内容と方法に関する検討会. “看護教育の内容とその方法に関する検討会報告書”. 厚生労働

- 省. 2011-02-28.
<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q.html> (参照 2013-11-10).
- 厚生労働省医政局看護課 (2007). 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書.
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/s0420-13.html> (参照 2013-11-10).
- Lynda Attack, Comacu Margret, Kenny Renee, LaBelle Nancy, Miller Debra. Student and staff relationships in a clinical practicemodel: impact on learning. *Nursing Education*. 2000, 39 (9 D), 387-392.
- 文部科学省 (2002). 看護学教育の在り方に関する検討会報告会. “看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標”.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018-15/toushin/04032601.htm (参照 2013-11-10).
- 文部科学省 (2002). 看護学教育の在り方に関する検討会. “臨地実習指導体制と新卒者の支援”.
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm (参照 2013-11-10)
- 三木恵里香、中江秀美、前田良子、大原幸子、片岡睦子 (2012). 実習指導者専任化体制に関する実習指導者及びスタッフの意識－基礎看護学実習Ⅱにおける取り組み－. 中国四国地区国立病院附属看護学校紀要、6, 8-19.
- 野崎真奈美、遠藤英子 (2007). 基礎看護学実習における教員と臨床指導者の連携のあり方－お互いに期待する役割の分析－. 東邦大学看護研究雑誌、4, 11-20.
- 志田久美子、袖山悦子 (2010). 臨地実習指導者の実習指導上の困難とサポートのあり方の検討－臨地実習指導者講習会での学びとの関わり－. 第41回日本看護学会論文集 看護管理、144-147.
- 椎葉美千代、斎藤ひさ子、福澤雪子 (2010). 看護学実習における実習指導者と教員の協働に影響する要因. 産業医科大学雑誌、32(2). 161-175.
- 島田悦子 (2015). 看護学臨地実習における教材化の臨床実習指導者と教員の比較. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター看護教育研究集録、115-122.
- 滝島紀子 (2012). 臨地実習指導における実習指導者と教員の協働のための要件－実習指導の教員に対する要望から－. 川崎市立看護短期大学紀要、17(1)、29-35.
- 田所良之、高橋良幸、河井伸子、谷本真理子、正木治恵、吉田由香、曳地陵子 (2012). 大学病院実習モデル病棟での慢性疾患看護実習における教員と病棟実習指導者との協働的取り組み. 千葉大学大学院看護学研究科紀要 第34, 21-26.
- 治田裕子、米田恭子、内田有香、岡田みゆき、新家美弥子、田中眞美、前田祥子 (2013). 臨地実習における看護師の役割とその実態. 第43回日本看護学会論文集 看護教育、118-121.
- 詰坂悦子 (2011). 臨地実習指導者の看護教員との連携に関する意識調査. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター. 看護教育研究集録、36, 2-7.
- 渡辺正人 (2006). 臨地実習指導者と看護教員の実習指導の実態. 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護教育研究集、31, 137-141.
- 山田聡子、太田勝正 (2010). 看護教員が期待する臨地実習指導者の役割－フォーカスグループインタビューに基づく検討－. 日本看護学教育学会誌、20(2)、1-9.
- 安永奈穂子 (2012). 実習指導に対する病棟看護師の問題意識と役割認識. 臨床今治、31-33.

[にじゅっけん あつみ 成熟看護学]